



江別ユネスコ協会事務局だより 2020年6月29日号

◇江別ユネスコ協会事務局/067-0074江別市高砂町24-6 教育委員会生涯学習課内(担当:見上☎381-1069)

「飛鳥・藤原の宮都と資産群」2024年の世界遺産登録をめざす

かねてより「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」の世界遺産登録を念願していた奈良県は、このほど推薦書素案をまとめ、3月30日に文化庁に提出しました。この遺産は、藤原宮跡や石舞台古墳、高松塚古墳など20件の遺跡などを対象にしており、日本の古代政治の舞台となった価値などを伝える遺跡群として、すでに2007年に世界遺産の暫定リストに記載されています。

地元の奈良県、橿原市、桜井市、明日香村は2007年に登録推進協議会を設立し、構成資産の選定等を進めていましたが、登録審査の重要条件である「顕著な普遍的価値」の証明や保存管理計画の策定が課題となっていました。3月12日の記者会見で、荒井正吾知事は、登録に必要な推薦書の作成に本格的に取り組む意向を示しました。当面、2024年の世界遺産登録をめざしています。

日本の世界遺産候補がつつぎと登録準備を進めています

世界遺産条約の締約国は、世界遺産として登録することが適当な資産の目録を、ユネスコ世界遺産委員会に提出し、暫定リストに載せることになっています。現在、日本から6件が暫定リストに載っています。この内「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」と「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」が、すでに日本政府から推薦され、世界遺産委員会の審議を待っています。つぎに「金を中心とする佐渡鉱山の遺跡群」と「彦根城」が準備しており、今般これに「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」が加わった訳で、日本政府からの推薦順位の争いが激しくなりそうです。

日本ユネスコ協会連盟の第71回定時総会は6月13日に終了！

公益社団法人・日本ユネスコ協会連盟の定時総会は、6月13日(土)13:30~15:10に、東京都千代田区の朝日生命大手町ビル27階にある大手町サンスカイルームA室において開催されました。今回は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、「極力、委任状を提出して、来場を控えてほしい」という異例の依頼文付きの案内状により開催されました。この総会で「2019年度事業報告書及び計算書類等(案)」が原案どおり承認され、本年3月の第534回理事会で決議された「2020年度事業計画書及び予算書」についての報告が行われました。この事業報告書、事業計画書、予算書等については、日本ユネスコ協会連盟のホームページに掲載されていますので、ご参照ください。

「使用済み切手」の整理は休止中ですが、回収活動は継続します

江別ユネスコ協会は、海外医療奉仕活動を支援する「使用済み切手」の回収活動を、創立当時より実施しています。酪農学園大学と関係の深いJOCS(公益社団法人・日本キリスト教海外医療協力会)の、アジア・アフリカの人々の命と健康を守る活動に協力しているのです。JOCSの使用済み切手運動は、2019年度だけでも19,717件の寄付を受け、換金額2,320万円を得て有効に活用しています。それが、今般、新型コロナウイルス流行により、切手の整理作業をするボランティアの人々の健康を守るため、来年3月まで休止することになったので、切手の受付を中止しました。

しかし、JOCSでは各協力団体に、切手回収を継続して、受付再開まで各団体で保管して欲しいと要請していますので、江別ユネスコ協会では従来どおり回収活動を継続します。会員、市民の皆様のご協力をお願いします。回収した使用済み切手は、枚数にこだわらず当協会事務局へお届けください。

